

参加者属性

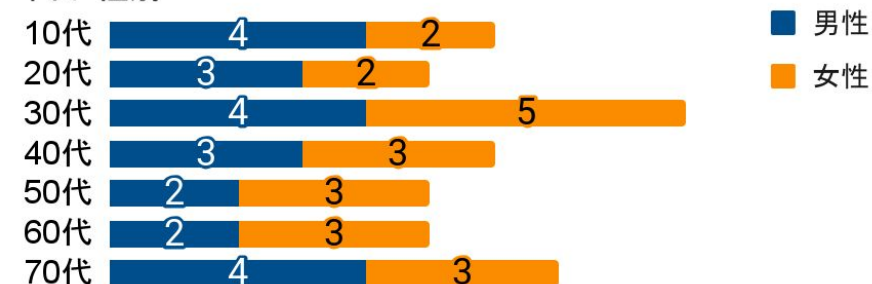
概要

10代～70代の市民43名が参加
(欠席:10代1名、40～60代各2名)

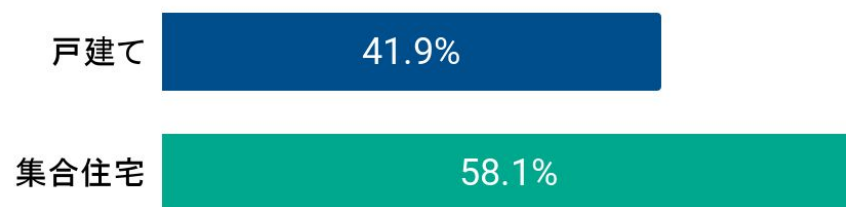
- 集合住宅にお住まいの方が約6割
- 長く積雪寒冷地に住んでいる方が中心
- 冬期道路環境に不満を持つ方が約3割
- 市政に意見を全く言ったことがない方が約半数
- 日頃から雪対策に関心がある参加者が約半数※参加申込時の調査より

属性

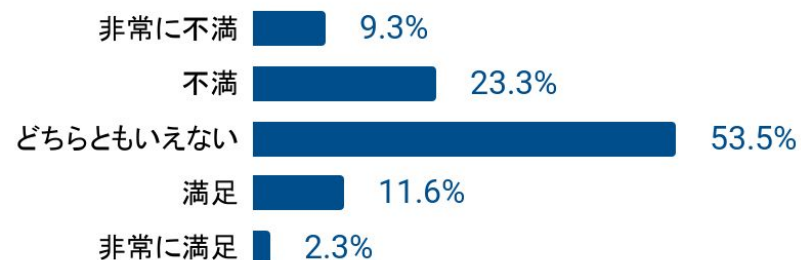
年代・性別(人)



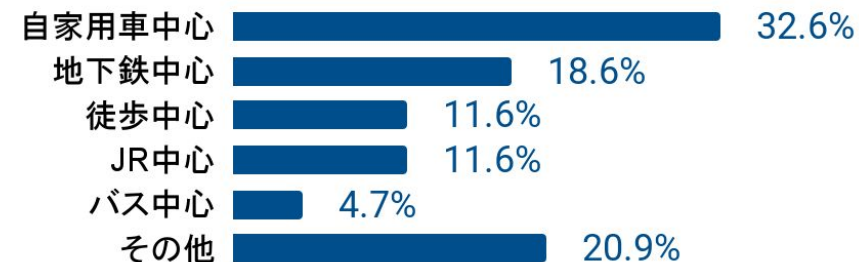
居住形態(n=43)



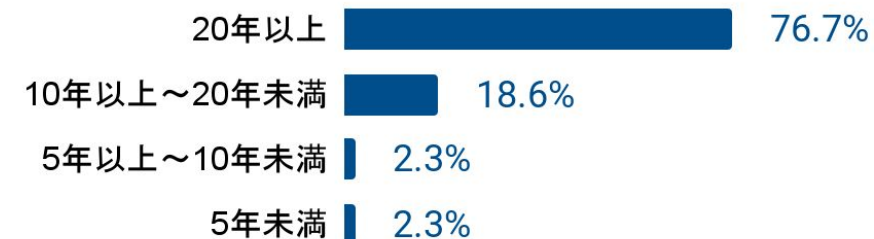
冬期道路環境への満足度(n=43)



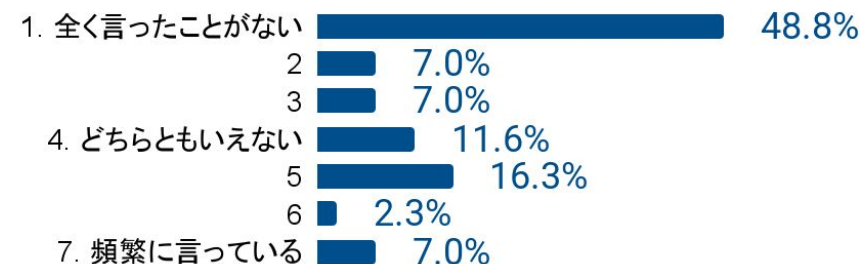
冬の主な移動手段(n=43)



積雪寒冷地での居住年数(n=43)



市政に意見を言う頻度(n=43)



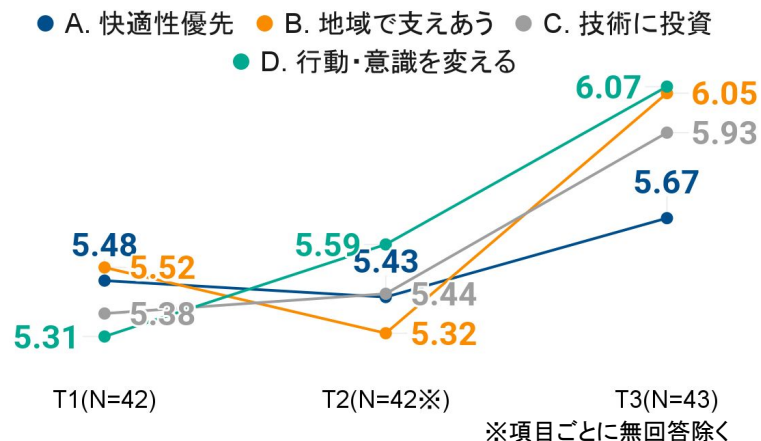
限られた資源で、何を優先するのがよいか

設問

Q1. 今後の札幌の雪対策が目指す、4つの方向性(シナリオ)についてお聞きします。
それぞれの方向性が掲げる「目指す姿」と「課題」を読んで、どの程度賛成しますか。(それぞれ7段階で評価)

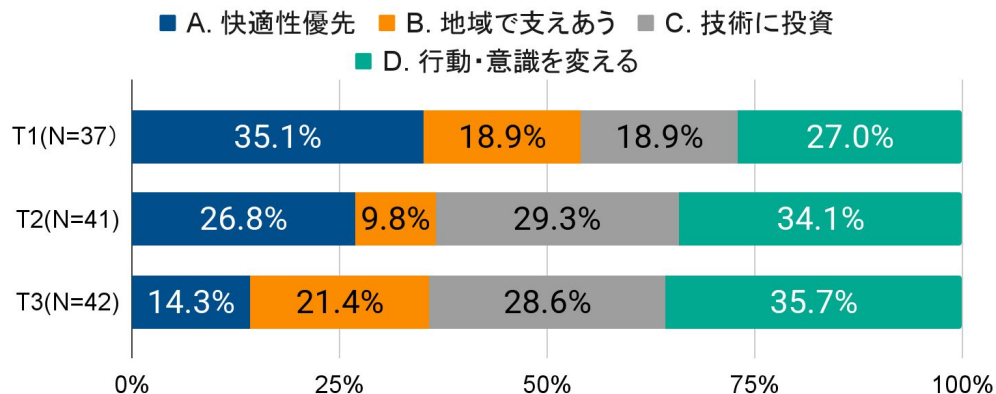
結果

シナリオ賛成度(7段階)



Q2. 4つの方向性(A~D)のうち、まず優先して進めるべきはどれですか。(1つだけ選択)

シナリオ優先度(択一)



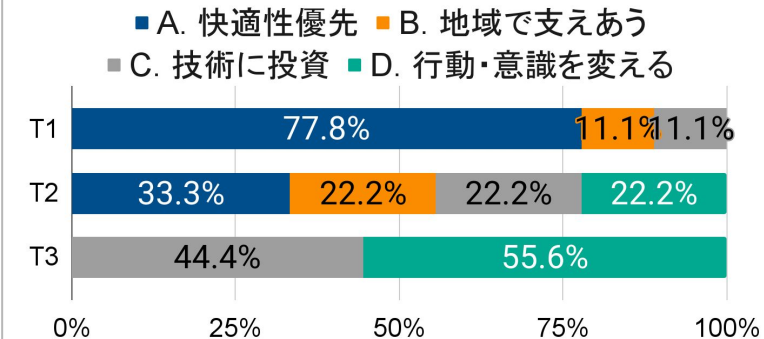
「行動・意識変容」を最優先

- 賛成度では、**D** の支持が増加し、最も高い賛成度となった。
- 優先度では、議論前は**A** が最多だったが、議論後には**D** が最も支持された。
- B** は情報提供後に支持が低下したが、最終的には増加した。
- C** も3割近い支持を得ており、先端技術の活用への期待もうかがえる。

(参考) 10/7の北星学園大学のWSの結果

- 大学生を対象としたWSで、同様の調査に参加した9名は、下図のとおり、優先度について最終的に**C**と**D**を支持した。

シナリオ優先度(択一)(n=9)



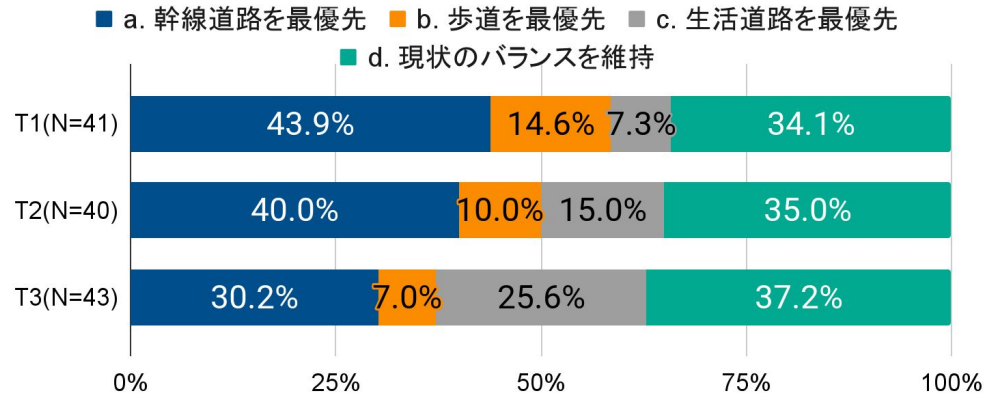
雪をどう受け入れ、支えあうのがよいか(雪対策の資源配分)

設問

Q3. 将来、担い手や予算が今よりも限られた場合の雪対策に関する資源をどこに重点的に配分するのがよいか、あなたの意見に最も近い考えを1つだけお選びください。

結果

雪対策の資源配分の考え方(択一)



「生活道路」への資源配分を求める声が増加

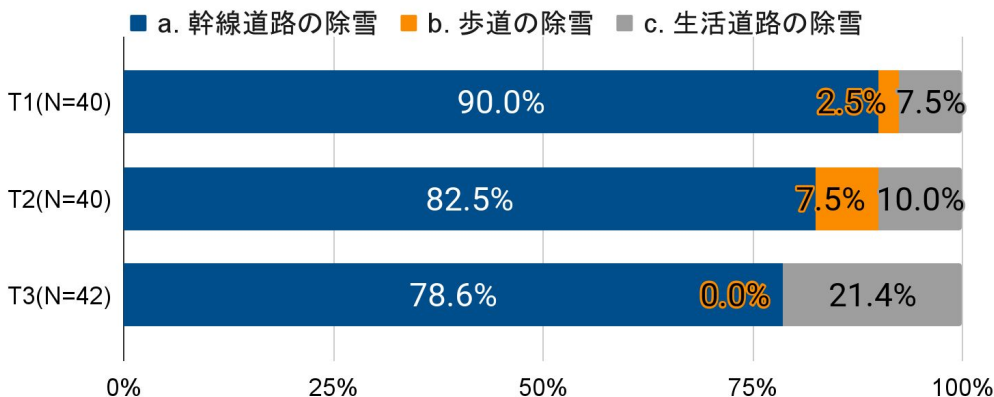
- 資源配分の考え方では、議論後に、**現状のバランスを維持**が最も高い割合を占めた。また、**幹線道路**の支持が減少し、**生活道路**を重視する意見が大きく増加した。

大雪直後は都市機能の確保を優先

- 大雪直後の優先作業では、**幹線道路の除雪**を約8割の参加者が支持。
- 資源配分の考え方と同様に、**生活道路の除雪**の増加も見られた。

Q4. 大雪が降った後の日の除雪作業についてお聞きします。限られた時間と人員の中で、あなたはどこを最優先に作業を始めるべきだと思いますか。1つだけお選びください。

大雪直後の優先作業(択一)



雪をどう受け入れ、支えあうのがよいか(地域支援メニュー)

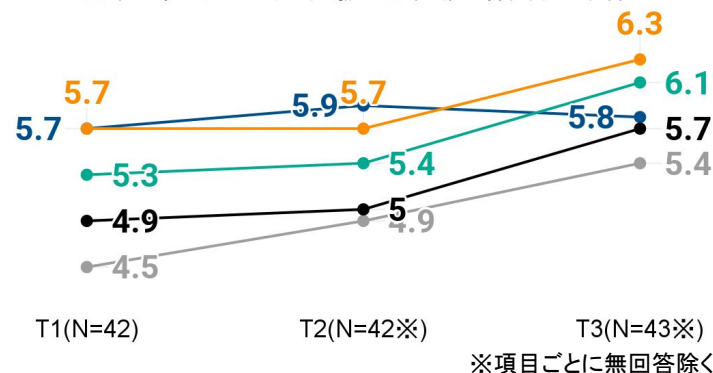
設問

Q5. 地域を支える支援メニューについて、それぞれの優先度をどう考えますか。(それぞれ7段階で評価)

結果

地域支援メニュー賛成度(7段階)

- 雪置き場の確保 ● 除雪用具の貸し出し ● 融雪設備の設置に関する支援
- 除雪ボランティア支援 ● 除排雪体制の確保



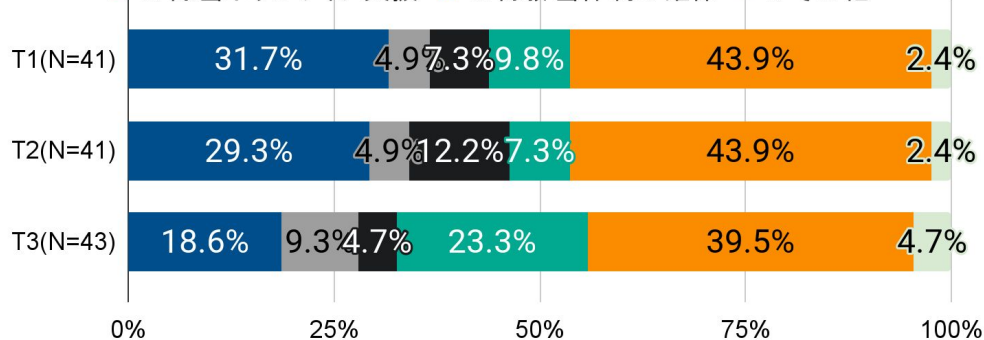
ボランティア支援や除排雪体制の確保を支持

- 地域支援メニュー賛成度では、提示された地域支援メニューのほぼ全項目において、高い賛成度が示された。特に、**除排雪体制の確保**や**除雪ボランティア支援**の賛成度が高かった。
- まず充実させるべき地域支援メニューでは、**除排雪体制の確保**が約4割を占めた。議論前に上位だった**雪置き場の確保**は最終的に支持が低下し、**除雪ボランティア支援**への支持が大きく増加した。

Q6. 支援メニューのうち、まず充実させるべきはどれですか。(1つだけ選択)

まず充実させるべき地域支援メニュー(択一)

- a. 雪置き場の確保 ■ b. 除雪用具の貸出 ■ c. 融雪設備の設置に関する支援
- d. 除雪ボランティア支援 ■ e. 除排雪体制の確保 ■ f. その他



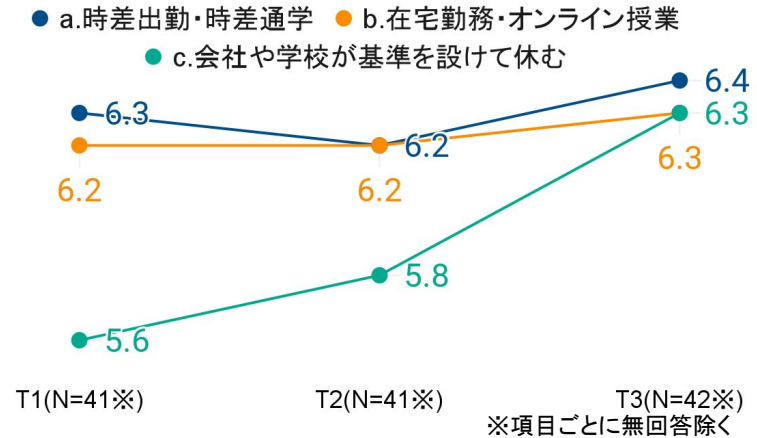
大雪の日の暮らし方のルール

設問

Q7.大雪や異常気象時の社会全体の対応について、どの程度賛成しますか。(それぞれ7段階で評価)

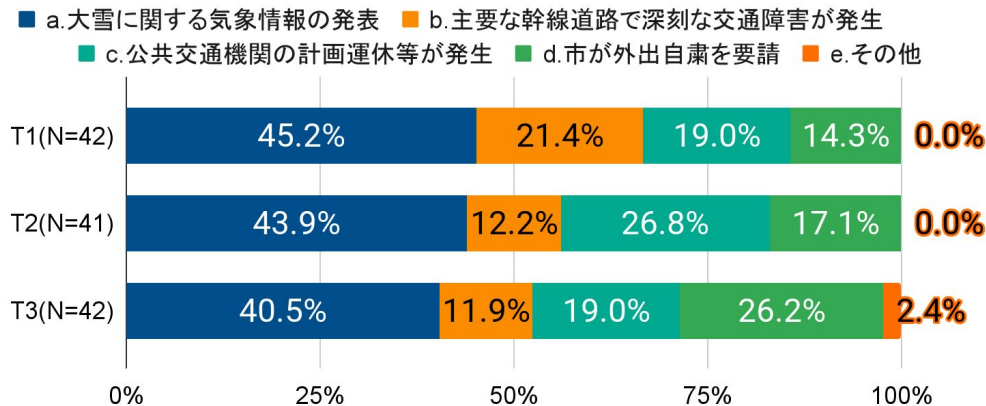
結果

大雪や異常気象時の社会ルールの賛成度(7段階)



Q8.Q7の取組を実施するきっかけ(条件)として、最も適切だと思うのはどれですか。(1つだけ選択)

社会ルールの適用条件(択一)



社会全体で休むことも許容

- 社会ルールの賛成度では、当初最も低かった**会社や学校が基準を設けて休む**への賛成が議論を経て他の項目と同程度まで上昇。大雪の日には社会全体で活動を休止することへの賛同が高まったと考えられる。

事後対応よりも未然防止

- 適用条件では、**大雪に関する気象情報の発表**への支持が約4割を占めた。
- 幹線道路で深刻な交通障害が発生**を支持する層が大幅に減少した一方、**市が外出自粛を要請**が増加しており、事後対応よりも、気象の予報や行政からの要請をもとに、未然に都市機能の麻痺を防ぐことが求められていると推察される。